

X I - 2 . 計画・設計の意図および期待される効果

(1) 計画・設計の意図

文献調査、設計者ヒアリング、事業者ヒアリングより、当該施設の整備の方針は、大きく3つに整理される。以下に、各方針に対する計画・設計の考え方と内容をまとめる。

1) まち再生のシンボルの創出

日向市駅周辺地区整備は、10年ほど前に、街中にあった大型店舗が撤退し、駅前商店街の店舗はシャッターが目立つようになったことから、緊喫の課題として中心市街地活性化策に取り組むこととなった。日向市駅をセンターコアとする中心市街地の97haを日向圏域の「生活・文化交流拠点地区」と位置づけ、まち再生のシンボルの創出が求められた。このため、委員会の雰囲気は当初から全覆い型のトレインシェッドを目指す方向で、シンボリックなものが良い、との考えであった。高架橋にもなっているため、市街地のどこからでも駅の場所を知ることができる。

また、改築前は、地上レベルの線路によって東西が分断されており、特に東側の住民は、大回りして駅の改札にまわっていた。鉄道の高架化によってこの不便さは解消されたが、その駅改築をまち再生のシンボルまで引き上げるために、この連続性をより強調し、高架下を有効活用し、西口広場と東口広場を一体的に整備されている。

これらに関する設計意図として、以下のものがあげられる。

1. 全覆い型の駅舎
2. 駅前広場と高架下空間の一体的な整備



写真 町の中心に浮かぶ全覆い型の駅舎



写真 トレインシェッドの駅舎と駅前広場



写真 高架下空間を介して一体化する東西の駅前広場

2) 地域性の演出

宮崎県は、全国有数の杉素材生産量を誇り、杉の利用技術の研究開発でも全国をリードする勢いで先駆的な杉の建築物や構造物の建設に積極的に取り組んでいる。さらに、日向市は後背地である耳川水系の広大な地域の木材の集散地として栄えた記憶が残っている。これら踏まえ、日向の地域性を演出するために地元の杉材をふんだんに使ったデザインが展開された。駅舎では、トレインシェッドの屋根架構に変断面湾曲集成材を、地上部のキャノピーに新構成の修正材を用い、また、地上部の天井材として間伐材による仕上げが用いられている。また、ストリートファニチャーでも照明柱、ボラード、ベンチなどに杉が用いられている。一般的に強度が弱いとされる杉を技術的な検討や実物大の実験により実用化し、駅周辺のあらゆる場所で様々な使い方をされることによって、日向らしさの演出が目指されている。

また、日向らしさの演出は、地元産材の活用以外に、日向市駅周辺の市街地や山並み、海へ向かう眺望を活かすことでも配慮されている。具体的には高架橋で高く持ち上げられた駅ホームを視点場として考え、防風スクリーンをガラスでデザインされている。また、このパノラマを大切にするため、鉄道事業者と連絡会を持ち、防風スクリーンには広告を出さない、という申し合わせも行われている。

これらに関する設計意図として、以下のものがあげられる。

1. 地場産材の杉の活用による地域性の演出
2. 駅ホームにおける視点場の形成



写真 駅舎の屋根架構に用いられた変断面集成材



写真 天井、キャノピーに使われた杉素材



写真 地元産の杉を用いたストリートファニチャー

3) 駅周辺の商店建築の統一

日向市駅周辺地区整備は、鉄道連続立体事業と同時に市施工による駅周辺土地地区画整理事業を行っている。区画整理された土地の上には、民間による商業建築が建設される。通常は、地元の設計事務所が、短い設計期間と工期の制約の中でクライアントである商業事業者の経済状況やより目立つ建築形態の要望により、同じ地区でもばらばらな商業建築がたつことが多い。日向市駅周辺では、駅舎、駅前広場の改築に伴って、誇れる町にしようと地区内を統一した商業建築にするデザインコードの取り組みが行われている。特に、日向市に着いてまず目に飛び込んでくる駅のプラットホームから見る屋根は、最初の印象を作る重要な要素として捉えられ、駅前の土地地区画整理事業の街区では、建物を担当する設計者たちが集まって話し合い、屋根の基本色をダークグリーンに決めている。

また、日向の中心市街地を歩いて暮らせる楽しい間に治する、という理想の元、居心地が良く人々の滞留時間が長くなり、コミュニケーションを深くし、愛される商店街になるよう、自然系素材や、道路からのセットバックなどの方針を盛り込んだ地区計画を策定している。

これらに関する設計意図として、以下のものがあげられる。

1. 屋根の色の統一
2. 地区計画、デザインコードの設定



写真 屋根の色がダークグリーンに統一された駅前の街区

建築計画に関わる約束事

1. 統一感のある 21 世紀の街並を作りましょう
2. 敷地空間を建築化しましょう
3. 木を使うことの意味を考えましょう
4. 民有地から街へお返しするものを必ず一つは作りましょう
5. 屋根の表現が重要です
6. 格子の町も魅力的です
7. 地元の建築家を中心に街作り規範のワークショップを開きます

民有空間の整備方針

1) 都市には自由で活発な生きるためのエネルギーが必要です

日向市は全く新しい街になります。雑多な建物が集まった寂しい風景の街にはしたくないものです。自由で楽しい街であっても軽い統一感のある町を目指しましょう。

2) 建物の形の制約はどこまで可能でしょうか

日向市は亜熱帯に近いアジアの都市です。ヨーロッパの威厳ある隙のない街並みより、アジアのちょっと呑気で、通りと渾然と一体化した街から学ぶことは多そうです。



3) 建築の素材（マテリアル）を制約することで、街の統一感をつくることを提案します

素材は何があげられるのか目録を地元の設計事務所や皆さんの協力を得て作りましょう。コストとメンテナンスも重要なポイントです。木、木製サッシ、珪藻土、瓦、金属屋根、ガラス



4) 地方都市の新しい『住まい方』や『文化』と『誇り』について考えましょう

歩いて暮らせる街
様々な世代が一緒に住むための考え方
地方分権化の時代には集合住宅の重要度が高まる
その他の楽しいテーマを見いだす

5) 日向市において街並みの基本となるものはなんでしょうか

南国日向では『緑』と『木陰』がキーワードになりそうです。
建物の作る日陰や軒先や半屋外スペースの陰もその意味で重要です。
建物の内側だけで過ごすより、木陰や庇の下で、そよ風に吹かれながらおしゃべりをしたり、冷たい飲み物をいただくのは楽しいものです。



6) 個別の建物から街に楽しくお返しするものを探しましょう

軒下（敷地空間）、床几台（美々津）、庭、植栽、半外部スペース、窓などの開口部、空調室外機の配慮

図 建築計画に関わる約束事 民有空間の整備方針

日向市駅周辺地区 地区計画
 (日向市延岡新産業都市計画地区計画 抜粋※)

※建築計画に関する約束事および民有空間の整備方針をもとに地区計画が策定された。

整備・開発及び保全に関する方針

- 日向入郷地域における森林資源を有効活用し、「木の文化」を活かし育てるまちづくりを実践するために、以下の点に配慮する。
- ・公共空間のみならず、民有空間での樹木、草花の育成・維持等に取り組み快適な街を目指す。
 - ・店舗や住宅においても地場産材の積極的な活用と維持管理に努めるものとする。

地区整備計画 建築物等に関する事項

壁面の位置の制限

建築物の外壁若しくはこれに代わる柱は、壁面線(計画図に表示する道路境界から1.0m後退した線)を越えて建築してはならない。

建築物の敷地面積の最低限度

100㎡とする。

建築物等の形態又は意匠の制限

- ①建築物の屋根・外壁及び屋外広告の色彩又は形態等の意匠は、周囲の環境と調和し、景観に配慮したものとする。
 - ②敷地地盤面の盛土の高さは、その敷地が接する道路面の最も高い地点から10cm以内とする。
 - ③壁面の位置の制限のある道路に面する敷地(道路境界から1.0m後退した線)については歩道面の高さとする。
- また、舗装材については、周囲の環境と調和し、景観に配慮したものとする。

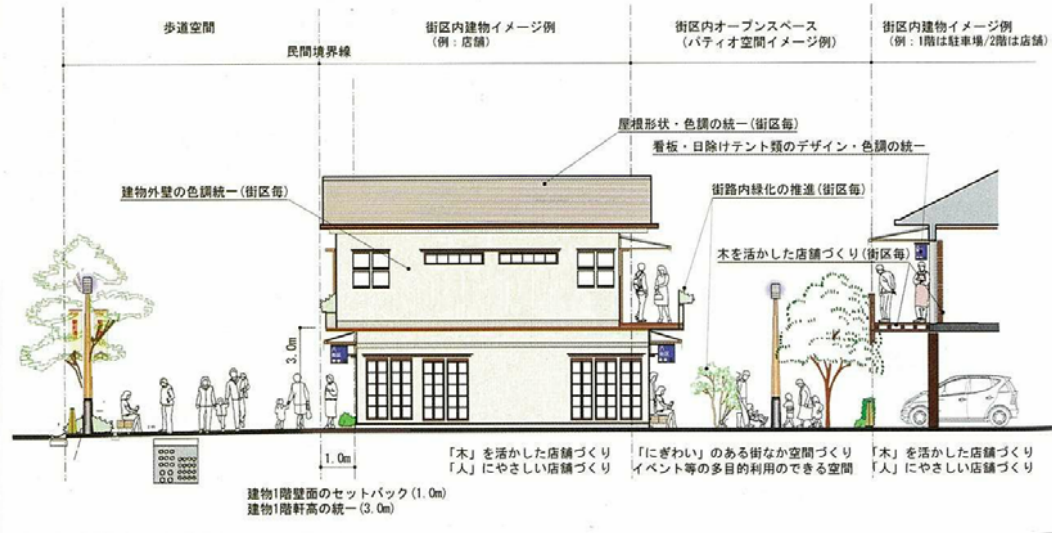


図 日向市周辺地区 地区計画

(2) 期待される効果

1) 設計意図と期待した効果のまとめ

文献調査と設計者ヒアリング、事業者ヒアリングによる計画・設計意図と期待される効果の対応は以下のようにまとめられる。

表 設計意図と期待した効果のまとめ

意図	景観に配慮した内容	期待される効果
A まち再生の中心となる空間形成		
1 全覆い型の駅舎	○まちの中心としての象徴性の表現	●意識変化(親しみ・愛着、誇り) ●利用形態・頻度等の変化、地域活動(イベント・行事)活性化、環境保全・学習活動
2 駅前広場と高架下空間の一体的な整備	○東と西を結びつける町の中心としての市民広場	
3 多様な利用を考慮した駅前広場の創出	○多様な利用に対応できる緑地勾配の設定 ○適度な領域性の創出	
B 地域性の演出		
1 地場産材の杉の活用による地域性の演出	○地域再生の象徴としての地元杉材の駅舎屋根への採用 ○街区のストリートファニチャへの杉材の使用	●意識変化(親しみ・愛着、誇り)
2	○曲線の多様による、柔らかく優しい印象のする空間形成	
3 地域の史跡公園をイメージした公園	○特定史跡公園に指定されている西都原古墳群の景観を参考として設計を行った	
C 日向市を見渡す視点場の形成		
1 駅ホームにおける視点場の形成	○地域の景観を感じられるよう、駅ホームの外壁にガラスを用い、海への眺望及び古墳への景観軸への眺望を確保	●視点場の形成(周囲の景観資源を顕在化させる新たな視点場の創出)
D 駅周辺の統一的な景観形成		
1 屋根の色の統一	○初めて日向にきた訪問者が駅のプラットフォームから最初に目にする屋根の色を統一	●意識変化(造形・空間の印象変化) ●商業活動の活性化
2 地区計画、デザインコードの設定	○ファサード、素材、セットバック等の統一した方針を設定し、地区の商業建築の統一感を得る。	●建物ファサードの変化、軒先空間の変化、周辺景観の改善、周辺施設の連帯性の向上

2) 期待される効果の発現段階における整理

上記期待する効果について、効果の発現段階の「意識変化」、「活動変化」、「空間変化」において以下のような効果が想定される。

表 発現段階ごとの効果の整理

期待する効果	意識変化	活動変化	空間変化
●まち再生のシンボルの創出	○まちの中心としての意識 ○わが町への誇りの形成	○駅周辺におけるコミュニティ形成 ○駅周辺でのイベントの開催	
●地域性の演出	○地域の再認識・再発見 ○杉産地の歴史への誇り		○地元産材を用いた建物のファサードの形成
●日向市を見渡す視点場の形成	○日向市の地形、町並みの特徴の意識化	○駅のプラットフォームでまわりの景色を眺める利用の創出	
●駅周辺の統一的な景観形成	○地域の連帯感の形成 ○駅周辺の印象向上	○回遊性の向上 ○商業活動の活性化	○連帯した商業活動の活性化 ○建物ファサードの統一 ○軒先空間の工夫、雰囲気向上 ○周辺施設の連帯性向上

これを踏まえ、各段階における効果の把握調査を実施した。